

安全対策協議会

身近な犯罪から緊急事態まで―「自分は大丈夫」を捨てる

2026年9月29日

在リトアニア日本国大使館

リトアニア治安の現状

犯罪種別	リトアニア	日本
犯罪認知総数	1,484件（2.36倍）	629件
殺人	2.6件（3.3倍）	0.79件
窃盗	319.7件（0.77倍）	417.7件
強盗	8.5件（7.3倍）	1.16件
		（25年、人口10万人比）

- ・ リトアニアの犯罪認知総数は**日本の約2.4倍**
- ・ 犯罪発生件数減少傾向（前年比-8.8%）
- ・ 薬物関連犯罪は増加傾向（前年比 24年:+15.2%、25年:+5.1%）
- ・ 窃盗（すり、置き引き等）には引き続き注意
- ・ 自宅の施錠、貴重品管理
- ・ 犯罪に巻き込まれないためには「夜」に注意

ケーススタディ

「リトアニア在留邦人被害の高額窃盗事案」

時期：2025年8月某日

被害場所：ビリニュス市内アパートのオートロック内

被害者：30代邦人男性（被害当時在留3ヶ月）

被害物品：ロードバイク（購入から2ヶ月）

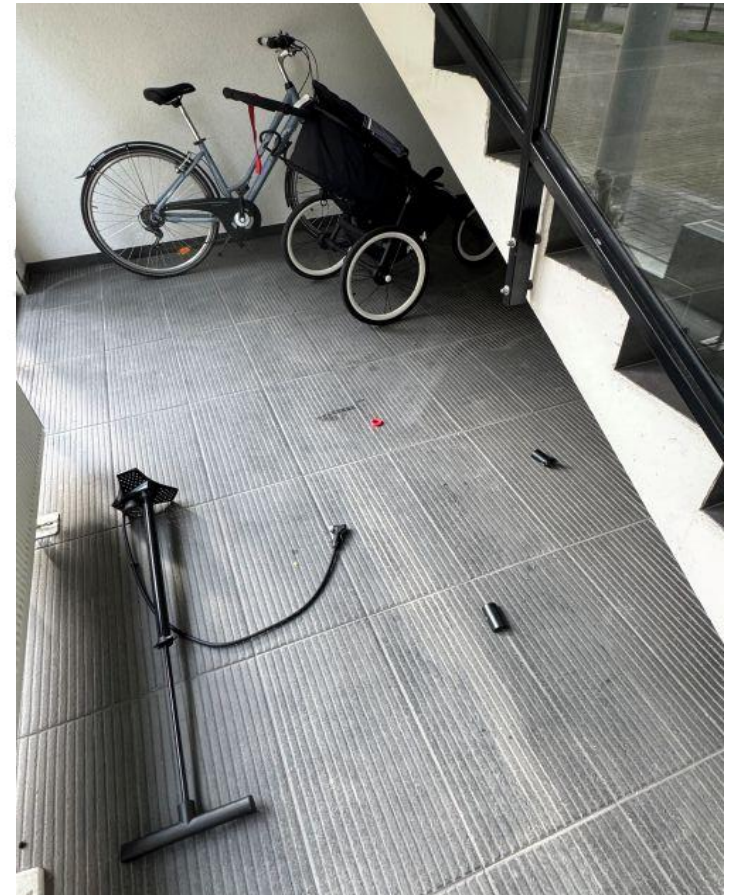
被害額：約3500ユーロ（ホイール、鍵、ライトなど含む）

状況：夜間、何者かに鍵を破壊され、持ち去られる

結果：警察に被害を届出るも、犯人の検挙や被害回復なし



盗難見舞金
対象モデル



三つの油断

油断 1 : オートロック内だから安全だと思った

共用部は自宅の中ではない。第三者が立ち入る可能性は常にある。

油断 2 : 丈夫な鍵を付けているから大丈夫だと思った

鍵は「盗難を防ぐもの」ではなく、「犯行のハードルを上げるもの」

油断 3 : リトアニアは体感治安が良いから大丈夫だと思った

「体感治安が良い」＝「犯罪に遭わない」ではない
大丈夫だろうという思い込みが、最大の油断

被害に遭うだけでは終わらない

- ・ 英語が通じるとは限らない
- ・ 警察がいつでも対応出来るとは限らない
- ・ 高額品は一度盗まれると回収が困難
- ・ 保険請求には領収書・写真・被害届などが必要



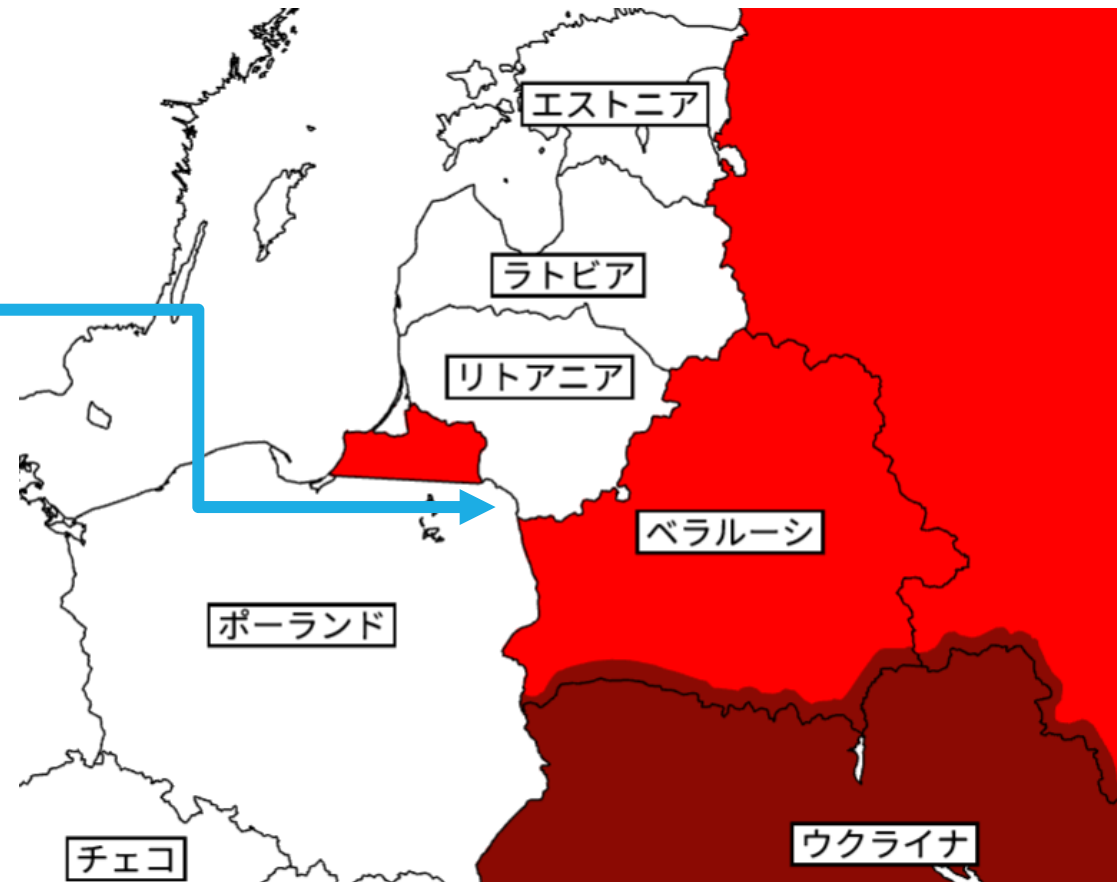
周辺国に関するリスク

- ・ロシア・ウクライナ戦争の影響下
- ・リトアニアはNATOの前線国であり、地政学上緊張度の高い要衝（スヴァウキ回廊）
- ・不法移民、サイバー攻撃、偽情報拡散など
- ・ロシア側からリクルートされた者がリトアニア国内で情報収集、破壊工作的活動

- ・ **危険地域への渡航禁止**

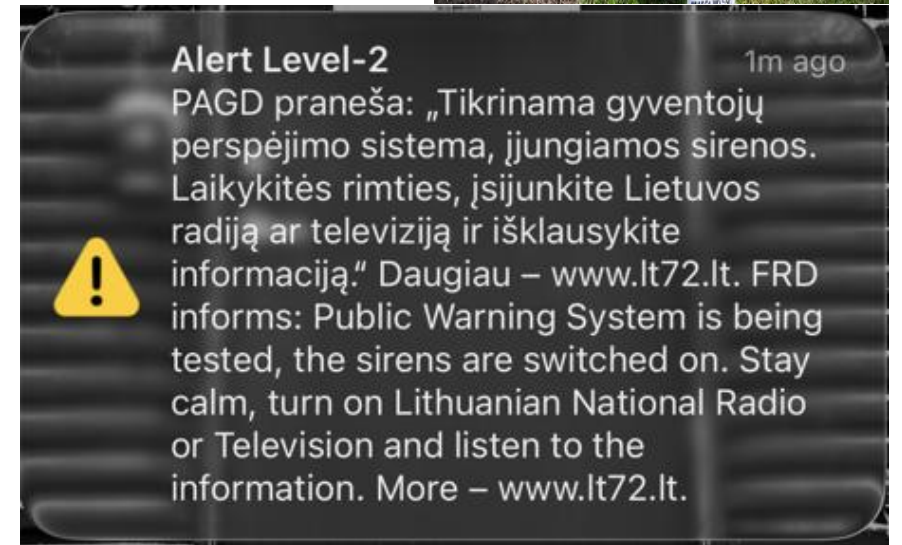
ロシア、ベラルーシ ▶ 渡航禁止勧告

ウクライナ全土 ▶ 退避勧告



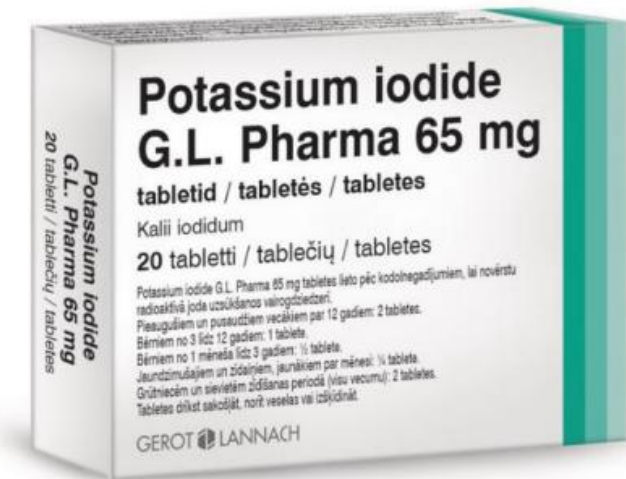
ドローン飛来・警報・避難

- ・ 周辺国からのドローン飛来・侵入事案が相次いで発生（本年5月に赤色警報、9月には黄色警報等）
- ・ **黄色警報**：危険の可能性。安全な場所やシェルターを確認し続報に注意。
- ・ **赤色警報**：航空危険。速やかにシェルター等の安全な場所に避難
- ・ 避難場所は平時から確認（「LT72」の活用）
- ・ 警報や緊急通知を受けたら、自己判断せず内容に従う



原発リスク

- ・ 国内外に1箇所ずつ原発があり、特に稼働中のオストロベツ原発（ベラルーシ）は首都から約50kmと近接し、大きな懸念材料
- ・ 事故発生時、「屋内退避」が安全への第一歩
- ・ 安定ヨウ素剤の服用
- ・ 情報収集—サイレン
国営ラジオ・テレビ放送局（LRT）
「LT72」の活用
- ・ 備蓄品—厳選7選
モバイルバッテリー、水、防寒着、
現金、ビニール袋、タオル、トイレットペーパー



その他

- 旅券手数料の改定（2026年7月から）
- 余裕を持った旅券の更新を
- EU圏内渡航時の旅券の携帯
- 長距離バスで移動時の旅券等紛失防止
- ETIAS（欧州渡航情報認証制度）導入予定
- たびレジの登録
- 在留届未提出の方への登録依頼
- 緊急時、まず連絡すべきは「112」





ロシア・ウクライナ

- ロシアは**国家安全保障上最大の脅威**。
- 本年7月に発足したシンケヴィチュス首相新政権は、ウクライナ侵攻を継続するロシアを「最大の脅威」として一貫して評価・分析。
- ロシア産エネルギー**依存からの脱却、調達先の多角化**。
- ウクライナに対する強い連帯感・最大限の支援(総額15億ユーロ以上を支援、また約5万4千人の**避難民定住化支援**)。



写真：シンケヴィチュス政権閣僚

中国・台湾

- シンケヴィチュス首相新政権は中国との関係を**他のEU諸国並み水準まで正常化**する方針。
- 中国との外交関係樹立は1994年9月、2012年中国・中東欧諸国会議「17+1」参加。
- 2021年5月、中国・中東欧諸国会議（17+1）から脱退。同年11月にビリニウスに「**台湾代表処**」開設。中国は駐リトアニア大使の召還、輸入を事実上停止（現在も部分的・迂回的回復に留まる）。
- 現在、当地中国大使館には一部職員のみ在籍し、在中国リトアニア大使館は外交官不在及び事務所なし。

日本

- 要人訪日：**ナウセーダ大統領の訪日**（2025年6月）
- 各種協議開催：日バルト協力対話、日リトアニアサイバー協議
- 戦略的関係：**日リトアニア戦略的パートナー**へ格上げ（2022年）、リトアニア外務省がインド太平洋戦略発表（2023年）、リトアニア国防省が防衛・安全保障への関与戦略発表（2025年）



英利外務政務官の第6回日・バルト
協力対話出席（2026年9月）

概況

- GDP成長率：2.9%維持（2025年2.9%）
- インフレ率：5.0%まで上昇の見通し（2025年3.4%）
- 失業率：6.8%の見通し（2025年6.9%）
- 賃金上昇率：9.4%に上昇の見通し（2025年8.7%）
- 進出日本企業数：15社

IMFレビュー

経済成長は堅調な内需、賃金上昇、EU基金による投資、年金第2の柱資産の引出しに支えられる見通し。他方、インフレ率は、エネルギー価格上昇の影響を受けて上昇。

産業

- 主要産業として、食料、化学、木材、家具、繊維工業が発展。石油精製事業と共にリトアニア経済を支えている。
- 近年、フィンテック、レーザー、ライフサイエンス（医療機器、バイオテクノロジー、製薬など）の分野を国家戦略として重点的に育成、ライフサイエンス分野を、2030年にGDPの5%規模の産業に育成するとの戦略目標を策定。

セクター

- インフラ：Rail Baltica本線開通は2034年へ延期。プロジェクト内の競争入札には日本企業も応札中。
- エネルギー：原子力発電小型モジュール炉(SMR)導入を2028年に決定。水素エネルギー施設をクライペダ、ビリニュスに設置。
- 宇宙：小型衛星、レーザー通信企業が成長。JAXAがVilnius Space Days 2026へ参加。
- 医療・ライフサイエンス：細胞治療センターBIO CITY III開所、Life Science Baltics（隔年開催、次回2027年4月カウナス開催）
- フィンテック：2025年時点で248社。小規模で創業し、海外大手企業による買収を通じて事業拡大傾向に。

科学技術

- ビリニュス大学ライフサイエンスセンターシクシュニス教授叙勲。
- AMED・リトアニア保健省の連携を通じた大学間共同研究の深化。
- 日本学術振興会・リトアニア研究評議会協力覚書締結10周年（10月 Science Week開催）
- 2026年7月、EU研究開発支援枠組「ホライズン・ヨーロッパ」に日本準参加。準参加国の研究者を含む3か国以上の研究チームが応募可能。

●リトアニアの脅威認識

最大の脅威はロシア。ただし、大部分の戦力がウクライナ戦線に投入されているため、ロシアが現状リトアニア含むNATO加盟国に対して軍事力を行行使する能力は非常に限定されている。

直接軍事侵攻の脅威度は低いものの、「ハイブリッド攻撃」やサイバー攻撃、偽情報の拡散は常続的に発生。

バルト海

- ・民間船(「影の船団」)による海底通信・送電ケーブルの破壊
- ・ロシア軍機・軍艦によるプレゼンスや情報収集活動

カリーニングラード(ロシア領)

陸上部隊および陸上装備はウクライナ戦地に移動も、海・空軍力は維持

偽情報の拡散

ロシアはテレグラム(ロシアのメッセージアプリ)を最も積極的に利用し宣伝・偽情報キャンペーンを展開



※図はイメージ

ウクライナ侵略の影響

ロシア製・ウクライナ製のドローンが度々領空に侵入。26年5月、ビリニウスで初めて避難警報。9月、NATO戦闘機がドローンを初撃墜

ベラルーシ

- ・不法移民の越境
- ・ロシア軍部隊の展開(兵士約2,000名、戦闘機)

サイバー攻撃

ロシアに関連するサイバーグループの標的として常続的な攻撃を受けている。標的は主にインフラ。攻撃手法はランサムウェアやDDOS等多岐にわたる。

●リトアニアの主な対策・計画

- ・国境警備の強化: ロシア、ベラルーシ国境沿いにフェンス構築、軍と国境警備隊が連携し監視を強化
- ・「バルト防衛ライン」の構築: 近隣諸国と共同し、対軍用車両障害物(龍の歯)等の防衛インフラを順次設置中
- ・リトアニア軍の強化: 米や独などからの最新兵器の購入(戦車、ロケット砲等)、軍人数の拡充(2030年までに、職業軍人を13,500→15,500名に、現役予備役を28,000名→50,000名へ)
- ・国防費の引上げ(2026年～30年にGDP比5～6パーセントへ)
- ・NATO前方展開部隊(ドイツ軍主導のFLF多国籍戦闘群)、米陸軍部隊(約1,000名)のローテーション展開
- ・ドイツ旅団の駐留(2027年までに5,000名規模となる計画)
- ・防空の強化(NATO戦闘機部隊のローテーション展開等)
- ・重要インフラ防護(NATOの海底ケーブル防護・監視任務への参加、官民連携でのインシデント対応の強化)
- ・リトアニア軍サイバー司令部を創設(2025年1月)、NATO等とのサイバー分野での連携を強化



カリーニングラードとの国境検問所に設置された障害物



ドイツ旅団の発足式典

(本資料は、以下の公刊資料および一般報道をもとに作成)

・リトアニア国家保安局・国防省情報局「National Threat Assessment 2026」

・リトアニア国家サイバーセキュリティセンター「OVERVIEW OF THE CYBERSECURITY STATUS IN LITHUANIA KEY INFORMATION 2024」

今後実施予定の日本文化関連イベント

- 10月18日 剣舞・水墨画パフォーマンス
@パランガ市Kurhaus
- 2027年1月- 日本グラフィックデザイン展
@リトアニア国立工芸博物館
- 2027年夏 海外巡回展「すしを愛でる」
(場所未定)

今年実施したイベント



日本・リトアニアの地域間交流

【姉妹都市協定】

- 岩手県久慈市ークライペダ市 (1989年)
- 岐阜県八百津町ーカウナス市 (2019年)
- 愛知県豊橋市ーパネヴェジース市 (2019年)
- 石川県加賀市ービルシュトナス市 (2023年)
- 神奈川県平塚市ーカウナス市 (2023年)
- 愛知県名古屋市ービリニュス市 (2026年)

【協力意向表明書】

- 神奈川県平塚市ーアリートウス市 (2017年)
- 北海道むかわ町ーアクメネ地域市 (2019年)



平塚副市長のカウナス訪問



ビリニュス市長の名古屋市訪問

杉原記念館の展示

- 2001年、旧在カウナス日本領事館事務所部分を改装し、「杉原記念館」として一般公開開始。
- 2025年3月、展示を改修しリニューアルオープン。執務机や当時の会話を再現した黒電話、自分の写真が載った「命のビザ」を取得できるコーナー等がある。
- 2026年は杉原千畝没40周年。



大使館のSNS

Facebook



Instagram



HP

